

浄泉寺護寺会報

発行者 浄泉寺護寺会会長 北村 明

護寺会報創刊にあたり

護寺会長 北村 明

浄泉寺護寺会を結成して、幾久しくなりましたが、此度護寺会報を発刊するに当り、新たな思いで一ぱいです。心より感謝申し上げます。

毎朝本堂を参詣いたします度に、本堂のすばらしい伽藍と荘厳を、拜するにつけ、身の引締められるように感じさせられます。

一日一日が有難く、大切に過して行きたいと思っ居る次第です。

この伽藍をとおして、真宗の教法に自己の人間として生きる、本来の願いを問い、生きる力を見いだし、真宗の教法の有難さをなお一層、感じるものがあります。

平成六年五月二十九日に勤修されました浄泉寺本堂の落慶法要を思い出します時、昨日のこのように思い出され、益々寺との間が真近に感じられ、本堂に座して礼

拜する時の心は、何にも例えようがありません。有難さを、しみじみと感じるものです。

私達は、家族のことで喜んだり、心配したり、仕事のことです苦しんだり、自信をもちたり、また人間関係に心をくだいたり、私達の生活はなかなか心の安まるいとまがありません。生きながら過去を悔い、未来に不安をもちつつ、活きているとい

われてい

そんな

時、お寺に

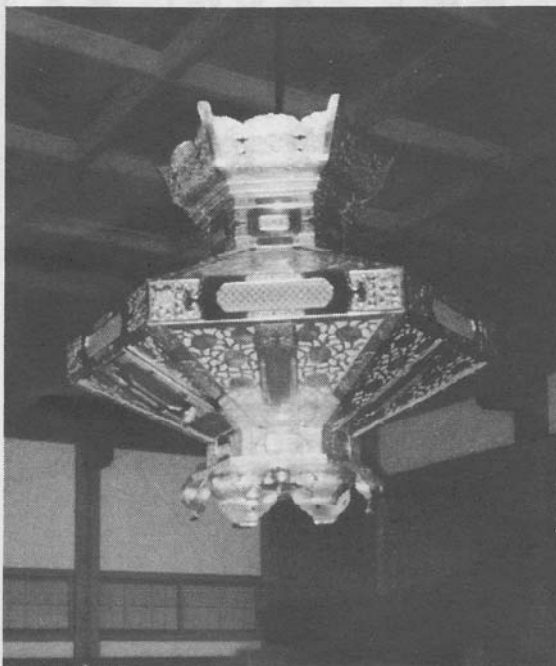
来て御本尊に手を合せて、南無阿弥陀佛と礼拝するとき、おのづから心が安

らぎ、毎日の仕事を楽しいものになると思います。

どうか月一回でも良いのですからお寺に御参詣になられるようにしたいと思ひます。

私達真宗門徒にとりまして、尊いご法縁に遇うことは、真に無常のよろこびでありますので、ぜひ本堂参詣をお待ちいたしたいと思っております。

年一回の会報であります、余命はこれを縁として、門信徒皆様と共に菩提寺を護り、受けついで行きたいと思っております。



■菱灯籠、本堂参詣の間（下陣）のシンボルとして供えられました。

護寺会報発行によせて

住職 赤羽根 證 信

つさせぬいのちの 佛に帰命し

はてなきひかりの 佛に帰命す

浄泉寺門信徒のみなさまには、
常日頃、浄泉寺護持運営にご理解
とご協力を賜り、有難く厚く御礼
申しあげます。

昭和五十七年浄泉寺護寺会結成
以来、寺門の興隆に、お心をお寄
せいただき、本堂建設という大事
業を成し遂げ、逐次、庫裡の増改
築、駐車場、水屋、ゴミ焼却場等々
の環境整備事業や、伝統の報恩講
をはじめ、本山（京都東本願寺）
参詣、聞法会、しんらん教室、万
灯籠会などの行事をとおして、み
なさまと共に、寺のあり方を問う
て参りました。

今年三月、これまでの浄泉寺総
代会の活性を計る一つとして、寺
報「俱会一處」の発刊を果たしま
した。加えて今度、護寺会発足十

五周年を期に護寺会報を発行し、
寺と護寺会とが互に協力して、年
二回の機関紙を、ご門徒のみなさ
まのお手元におとどけ出来るよう
配慮いたし、寺と門徒の交流の場
として、活用されますれば幸いと
思っております。

戦後五十年、これまでの歴史は、
物不足からの脱却と、物あまりが
故のひずみの中で、真の豊さへの
模索の時代だった様に思えます。

「衣食足りて礼節を知る」とい
う諺があり、二十一世紀は心の時
代とも言われています。今こそ、
佛の教えをとおしてあらたな真実
の光を見出し、大いなるいのちの
歴史の流れに参加する一人ひとり
の人生に、南無阿弥陀佛の教えに
出遇い、実りある生涯だったと満
足し、ふりかえられる生活が拓か
れることを念じつつ、会報発行に
よせる言葉といたします。合掌

護寺会報の創刊を祝して

責任役員 赤 間 栄 夫

護寺会報の創刊を心からお慶び
申し上げます。

本年の三月に寺報（俱会一處）
が発刊され、この度護寺会報が創
刊されました。当浄泉寺の二つの
組織である総代会と護寺会が、そ
れぞれ、会報を発行することにな
り、名実ともS.Lの両輪のごとく、
お互いに相反することなく、一致
協力して、菩提寺の興隆に邁進で
きるものと信じます。

護寺会発足当初より、毎年行な
われてまいりました、総会の経過
につきましては、その都度、総会
報告を発行して、門信徒の皆様
にお届けをして、今日に至っており
ますが、この度、護寺会報を発行
することになり、より広範な、よ
り内容の濃い情報を提供すること
ができ、門信徒皆様の交流が、さ
らに充実され、会報をとおして深
まってゆくものと信じて止みませ

ん。

去る六月二十三日に開催されま
した浄泉寺護寺会の、総会報告の
平成八年度の事業計画の中にも記
載されてありますが、上山研修（京
都の東本願寺）に門信徒の皆様が
積極的に参加され、参加された方
には研修内容を会報に寄稿してい
ただき、門信徒の皆様にも周知して
いただくとともに、その後、上山
研修に参加する方の参考に資して
いただければと思います。

護寺会としても、上山研修のた
めの基金を積立てておき、参加者
への旅費を会で負担するよう、本
年度の予算に計上しております。

いずれにしても、会報をとおし
て、門信徒皆様の相互の交流の輪
が、あたかも、湖面に投げられた
一石の波紋のごとく広がってゆく
ことを心から祈念し、この度の護
寺会報創刊の祝辞といたします。

平成八年度

浄泉寺護寺会総会報告

赤間 栄夫

去る六月二十三日、はっきりしない入梅特有の小雨もよの午後一時より、浄泉寺本堂において護寺会の総会が開催されました。

当日は、町内で二つの行事があり、出席者が少ないのではないかと危惧されましたが、委任状を含めて百十名の参加がありました。

開会に先だち、住職と御子息の読経に唱和しご本尊を礼拝し、蘇武則行さん(下川原)の司会にて、議長には、佐々木誠さん(通丁)が選出され、平成七年度の事業報告、収支決算報告、平成八年度の事業計画案、収支予算案の議事に入り、すべて原案どおり満場一致にて承認されました。以下おもな点について報告します。

平成七年度事業報告

◎本山参詣の旅

九月三日から五日まで二泊三日

の本山(京都・東本願寺)参詣と中仙道の旅が、久しぶりに実施されました。これは二、三年に一度の割合で行なわれておりましたが、本堂建設のため中断していたもので、今回は四十二名の参加を得て、厳粛な中にも長良川の鵜飼見物など、門信徒皆様との交流があり楽しい旅行でした。

◎責任役員・総代研修会

十二月五日東北別院において、仙台教区開設以来はじめての研修会が開催され、住職・赤間・北村・岡本(修)の四氏が出席しました。責任役員・総代の役割その他講師による法話が研修の内容でしたが、出席者はメモをとるなど真剣に取り組んでおりました。できれば、ひとつのテーマを決めて、出席者全員で話し合うような時間設定があっても良かったのではないかと思います。

◎修正会

平成八年一月十六日浄泉寺本堂において、鬼首のご門徒・その他二十二名の出席を得て修正会が開催されました。

修正会とは、世間で一般に言われている元朝詣りのことで、一月十五日までは、門信徒の皆様も何かと多用と思い、一月十六日の「藪入り」に設定をしております。今後浄泉寺の行事として定着させたいと思いますので、是非ご参加下さい。

平成七年度収支決算報告

◎特別会計(報恩講)

これまで護寺会の特別会計(報恩講)として、護寺会の総会に計上していましたが、今年度より総代会の収支に充当することになりました。したがって、総代会費は門信徒の皆様から徴集いたしません。

◎本堂建設後の残金の報告

平成八年五月三十一日現在の残金は六百万円を越えています。

駐車場から本堂への連絡通路・焼却場・水屋の工事など継続事業につき支出しておりませんので、現在の残金より支出となります。

また、残金については、環境整備に使用いたしますが、近い将来当町においても、下水道が設置されると思います。その際下水道本管までの資金が莫大な金額になるものと予想されますので、その基金として積立てをしておきます。

平成八年度事業計画

◎護寺会報の発行

先に総代会で寺報「俱会一處」を発行いたしました。護寺会でも会報を発行して、門信徒皆様のコミュニケーションを計ってまいります。

◎上山研修基金

本山において二泊三日の研修があり、当浄泉寺でも積極的に参加して、門信徒皆様の意識の昂揚を願い、研修に参加される門信徒の方への往復の旅費に充当します。

以上

ご案内

お盆の行事について

早いもので、今年もお盆(孟蘭盆会)が、やって参ります。恒例の行事のご案内をいたします。

◎八月七日・一斉清掃(墓地・境内地)午前五時三十分より一時間、各自の墓地と境内周辺の清掃を行います。ゴミは必ず焼却場へ持参して下さい。六時三十分より朝の勤行(おつとめ)に参詣し、本堂での朝の茶会で午前七時に解散となります。

◎八月十三日より十六日までの、夜七時から九時の間、恒例の万灯籠会が行われます。

参道の両側の灯籠には赤あかと灯がとまり、幻想的な雰囲気の中で墓参もなかなかなもので、夜の風物詩ともなりました。楽しみながらの墓参を、是非、ご家族揃って出かけ下さい。

なお、お申込みは地区役員か寺会費は、千円となります。

新しく駐車場、水屋、ゴミ焼却場を整備いたしました。マナーを守り、これらをお大切に利用いたしましょう

この法縁に会うことは、五十年に一度、つまり生涯に一度の機会であり、是非法要に参詣して、みなさまと

◎蓮如上人五百回御遠忌

寺報「俱会一處」でも紹介いたしました。平成十年四月十五日より十日間、本山において、蓮如上人五百回御遠忌法要が執り行われます。

もに信心のよろこびを確かめあつて行きたいと念じます。

浄泉寺護寺会役員

- 顧問 岸 力(二ノ構)
- 会長 北村 明(川原小路)
- 副会長 山田 勉(下町)
- 副会長 赤間 栄夫(通丁)
- 庶務 渡辺 敏雄(仲町)
- 会計 岡本 修一(通丁)
- 理事 中坂久之助(通丁)
- 菱沼 久喜(通丁)
- 鈴木 咸夫(柳町)
- 小松 金好(本町)
- 浜田源三郎(横町)
- 米倉 猛(川原町)
- 渋谷 至一(川原町)
- 伊藤 敬一(二ノ構)
- 坪田 辰雄(寿丁)
- 蘇武 則行(新橋)
- 鈴木 孝也(本町)
- 大内 達男(通丁)

あとがき

今回は寺報を発行いたしました。前回は編集にあたって大変苦労いたしました。今回は、比較的楽に発行することができました。

前回お届けした寺報と一緒に綴って保管して下さい。(赤間)

年回表

(平成八年)

一周忌	平成七年
三回忌	平成六年
七回忌	平成二年
十三回忌	昭和五十九年
十七回忌	昭和五十五年
二十三回忌	昭和四十九年
二十五回忌	昭和四十七年
二十七回忌	昭和四十五年
三十回忌	昭和四十二年
三十三回忌	昭和三十九年
三十七回忌	昭和三十五年
五十回忌	昭和二十二年
七十回忌	昭和元年
百回忌	明治三十年